

会 議 録

| | | | | | | |
|------------------------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|------|------|----|
| 会議名 (審議会等名) | | さがみはら森林ビジョン審議会 | | | | |
| 事務局 (担当課) | | 森林政策課 電話042-780-1401(直通) | | | | |
| 開催日時 | | 令和4年8月23日(火) 15時00分～17時00分 | | | | |
| 開催場所 | | 津久井総合事務所3階 第1会議室 | | | | |
| 出席者 | 委員 | 6人(別紙のとおり) | | | | |
| | その他 | | | | | |
| | 事務局 | 8人(環境経済局長、森林政策課長、他6人) | | | | |
| 公開の可否 | | 可 | 不可 | 一部不可 | 傍聴者数 | 0人 |
| 公開不可・一部不可 の場合は、その理由 | | | | | | |
| 議 題 | | 1 開会 2 議事 (1) 会長及び副会長の選任について (2) 令和3年度さがみはら森林ビジョン実施計画の進行管理について 3 その他 (1) 森林整備計画の改定について(情報提供) (2) 次回の審議会について 4 閉会 | | | | |

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

会議に先立ち、環境経済局長から委嘱状の交付を行った。

1 開会

事務局（森林政策課）で開会し、会議定足数及び傍聴者の有無について確認がされ、委員の過半数以上の出席と傍聴希望者はいないことを報告した。また、議事録の公開について説明し、委員の了承を得た。

2 議事

（１）会長及び副会長の選任について

委員の互選により、会長には松本委員が副会長には佐藤委員が選任された。

（２）令和３年度さがみはら森林ビジョン実施計画の進行管理について

ア さがみはら森林ビジョン進行管理の方法について

進行管理の方法、スケジュール等及びさがみはら森林ビジョン後期実施計画進行管理対象事業について事務局から説明を行った。

イ さがみはら森林ビジョン後期実施計画について

事務局から進行管理シートに基づき、令和３年度の主な取組と実績、事業課評価及び令和４年度の取組事項について説明を行った後、質疑応答及び事業に対する審議を行った。なお、事務局による進行管理シートの説明は、「重点事項その１」、「重点事項その２」について行った。

【「重点事項その１」に係る審議会からの意見、質疑応答等】

事業コード 1-2-1 さがみはら森林ビジョン普及・啓発事業（１）

（松本会長）本事業は、令和元年東日本台風及びコロナ禍のため、予定どおり事業が実施できていないかと思われる。想定していない出来事が発生した場合に弾力的に指標・目標が変更できる案もあるが、指標・目標が変更できないのであれば、実施した代替事業をイベント回数に換算して評価を行う等の必要があると考える。

（中島委員）市民の森事業が基本的なスタンスになっていると考えている。市民に森林関係の施策等を理解をしていただいた上で、イベントなどを行っていく必要があると考える。

南区在住の市民が緑区のことを知らないため、まずは市民をまきこむことが必要ではないか。森林施策は緑区特有のものであり、中央区、南区在住の市民が知らない現状がある。

旧市内でイベントなどを行うことで、知ってもらえる機会が増えるのではないかと。例えば、東京オリンピック2020レガシーも相模大野駅前に設置するなど、足元からイベントをやっていくことが大切である。市内でのイベントを通して市民理解を深めていけるのではないかと。

(葦山委員) 相模総合補給廠の面積が広く、コロナ対策もでき、森林防災キャンプといったイベントを行うことも効果的ではないかと。炊事を行う際に津久井産材を利用するのもいいのではないかと。

(松本会長) 相模総合補給廠はイベントに使用することができるのか。

(事務局) 使用は可能だと思うが、防災キャンプとなると所管が複数となり、ハードルが高いが、提案があれば検討していきたい。

(事務局) 市民の森について、現在登山道の整備、展望台の景観伐採等を行っているが、本来の目標・計画通りに遂行するためには時間を要すると考える。市民の森の理念をおさえつつ、場所等にとらわれず、他の場所ややり方を検討し、市民に森林に対する意識を持ってもらうための取組も必要であると考えている。また、津久井産材の魅力を発信するためにバスを貸し切り「林業体験ツアー」を今年度初めて実施した。募集人員20名に対し、約65名の応募があった。参加いただいた方からはご好評をいただいた。市民の森に限らず、さまざまな取組をしようと考えている。また、SNSの活用も区役所等と連携しながら行っている。

(淵上委員) イベントのアンケートで参加者に相模原市の森林の割合を聞いても、知らないことが多く、市民の森林に関心が低いことを実感している。

(佐藤副会長) 今回実施された、林業体験ツアーは、森林ビジョン事業コード1-2-1に基づく実施なのかその経緯を説明願いたい。

(事務局) 中山間地域対策の一環として市が主催し、JTBに委託した。今後事業化・商品化をしたいと考えている。今年度と来年度は市主催のモニター事業として進めていく。

(佐藤副会長) 林業体験ツアーは、山を知らない子どもに対し、山を知ってもらえるいい機会になると思う。実際に次回開催の申込について森林組合に問い合わせがあった。さがみはら津久井産材拡大協議会で、ホームページやパンフレットを作成して情報発信をしているが、今回の体験ツアー等、森林関係のイベントを掲載していただきたい。

(葦山委員) 林業体験ツアーはバスで行ったということだが、密ではなかったのか。

(事務局) 開催にあたっては、検温などコロナ対策を十分に行った上で、実施をしている。

(松本会長) イベントをする際は感染対策は十分に行った上で、実施する必要がある。進行管理シートも感染対策を行った上で実施する旨を記載したほうがよいと考える。事業課の評価は「B」としているが、実績に即して「A」としても良いと思う。

事業コード3-1-1 「相模原市市民の森」整備事業(2)

(松本会長) 展望台の伐採を行ったとのことだが、現地での様子はどのようになったのか。

(杉本委員) 景観伐採及び展望台の修繕を行った。

(松本会長) 景観伐採を行ったことで、展望台としての機能が確保されているのか。

(杉本委員) 多少は解消されたと思うが、草刈は定期的に行ったほうがよいと考える。

(松本会長) 展望台を利用して、イベントを行う予定はあったのか。

(事務局) イベントを行う予定はなかったが、今後は事業の中で活用できるよう努めていきたいと考える。

(松本会長) 展望台までの所要時間はどのくらいか。

(事務局) 1時間程度である。

(松本会長) 展望台まで1時間程度で行けるのであれば、全世代を対象にした登山イベントの実施ができるではないか。そのようなイベントの実施を検討していただきたい。展望台を環境教育やツアーに使用する方法も良いと思う。

事業コード 3-3-1 企業の森の整備 (3)

(松本会長) 下流域の企業に向けるとよい。また、相模原市は政令指定都市であり、規模が大きいため、市内の企業に向けるとよい。市内の企業に目を向けることで、市民が森林事情を知らない現状の解消につながるのではないかと。子ども向けのイベントを山で実施することで、親の関心にもつながる。林業体験ツアーはまさにいい方法であると考え。他課や企業と連携したイベントであれば、その旨を進行管理シートに記載してもよいのではないかと。縦割りに記載するのではなく、連携して事業を行っている旨を記載していくのがよいと思う。

(事務局) 林業体験ツアーは、森林政策課と観光・シティプロモーション課で連携して行っている。また、上野原市主催の森林教室についてホームページで周知するなど他市との連携も行っている。

(松本会長) 社会情勢に伴い、副次的効果があった場合は、そのような旨も進行管理シートに記載していただくといいのではないかと。

(中島委員) 実際に企業より観光協会に話があった。観光に対して、地域経済の活性化を主眼にして取り組んでいきたい話もある。企業は行政と連携して取り組んでいきたいと考えている。県内の観光地は観光地同士のネットワークがないことが課題になっている。また、県央地域の観光は他観光地に比べて集客力が弱く、相模原市は周辺自治体と連携し、森林に関する体験ツアーのイベントを通して地域活性化につなげていけばいいのではないかと。相模原市の観光客のニーズはキャンプやイベントが中心であるため、可能性が多くあるのではないかと。森林ビジョンと観光で互いに連携していけばよいのではないかと。

(松本会長) S D G s の中で森林は大きな役割を担っている。相模原市は政令指定都市でありながら、豊富な森林資源がある。S D G s を全面に売り出すことによって、市民に対する啓発や市民の誇りに繋がる。また、企業ではE S G 投資がトレンドになっており、森林に対して関心が高まっている。他市も参考にし、相模原市も生かしていただくとよい。

(佐藤副会長) カーボンクレジットの取組の進捗状況は。

(事務局) 先進の事例を調べたり、制度を実施した場合の効果を検証したりしている段階である。財産区の山を使用する場合は、調整が必要になってくる。

(佐藤副会長) 事業コード3-3-1にカーボンクレジットについての記述があるが、その後の進捗の説明が欲しい。カーボンクレジットは林業界で関心が高まっているため、早めに取り組んでいただけるとよい。

(事務局) 今後は、財産区の意向の確認や、情報収集を行う予定である。

(葦山委員) 財産区は高齢化が課題であるが、どう考えているか。

(事務局) 財産区と共同して取り組める事業があるかを検討しているが、現時点では、財産区は独立した団体であるため、財産区の山は財産区で管理していただく形となっている。

(佐藤副会長) カーボンクレジット制度は過去の自然保護林に対して1ha1万円の補助金の配布のような施策でなく、山の整備と一体化して認定できるような事業になると良いと思う。

(松本会長) FSC認証林で10年前から実施している市町村もある。市内企業・上流下流域企業にも目を向け、情報収集を引き続き行っていければよい。

(事務局) 実際に企業から問い合わせをいただいている。企業のニーズと相模原市の取組がリンクできるのかを検討している。

(松本会長) 青梅市ではデベロッパーが撤退した土地を一括で購入し、市民の森を増やしている事例もある。私有林を寄付したい人や売却したい人もいるため、それらの山を利用する方法も考えられるのではないか。

(佐藤副会長) 森林組合に実際に山を売りたい人の相談はある。

事業コード4-1-1 さがみはら津久井産材素材生産量の拡大(4)

(松本会長) 目標からわずかに下回っているだけであり、ほぼ目標を達成をしているため、「A」評価にあげてもいいのではないか。

(佐藤副会長) 事業コード4-1-1にの具体的取組にサプライチェーン構築の検討がある。共森林組合もサプライチェーン構築の検討をしているが、林業においてはその把握はなかなか難しい。また、サプライチェーンの構築は一企業ではなく、林業業界として取組む課題と思っているが、実現に向けた対応状況はいかがか。

(事務局) さがみはら津久井産材利用拡大協議会の取組もサプライチェーンの構築に向けた取組の第一歩だと考えている。また、「新たな森林ビジネス創出事業」といった事業立てをしており、その中で研究している段階である。

(中島委員) 林業はサプライチェーンを構築をしていくのは現実的に難しい。サプライチェーンの構築ではなく、ビジネスモデルの構築をしていく方向がいいのではないか。

(松本会長) 全体的なサプライチェーンを構築するのは難しい。CSRに参加した企業のビジネスモデルをサプライチェーンとして捉えるのはいいのではないか。個別のサプライチェーン

の流れを見ていくのがいいのではないか。

事業コード 4-1-3 地産地消の促進 (5)

(松本会長) レガシーとして、木製ソファや木製カウンターを設置したとのことだが、評判はどうか。

(事務局) 実際にどこで作られているのかといった問い合わせをいただいております、製作した企業を案内している。

(松本会長) 家具だとロットが小さいため、サプライチェーンを構築しやすいのではないかと。木製ソファについて問い合わせをもらっていることはレガシー効果があると考えられる。相模原市の中心街だとマンションが多いため、家具や食器 (お椀) だと取り入れやすいのではないかと。

(淵上委員) 県には家具に関するポイント制度があるが、相模原市にはないため、検討していただけるとよい。

(葦山委員) 福祉とものづくりがつなげられないか。ネットで木を売れるシステムが構築できると、より身近に感じられるのではないかと。木を売れるシステムの中で障害者の雇用にも繋がれるとよい。

(佐藤副会長) さがみはら津久井産材の利用拡大の消費量を増やすためには、家の建築の木材需要を増やすことがよい。相模原市は現在、間伐材がほとんどだが、将来的には整備された山から択伐等を経て皆伐し、植林をして循環する森林ビジョンが必要であるとする。

(淵上委員) 東林間児童館の建替にあたっては桜の木を伐採し、建築物に利用することとしているが、乾燥に時間を要するため、年度内の完成は難しい状況。

(松本会長) 広葉樹は乾燥に時間がかかる。原材料の調達、加工を単年度で行うことは難しいため、柔軟に対応できるような仕組みができるとよい。消費者側としては、木を加工した後、大きさが小さいと大きな木がこんなに小さくなってしまったのかとなってしまう。加工後のものは大きいほうがよい。

(葦山委員) 廃校になった青根小・中学校の跡地はどのような利用がされるのか。

(事務局) 管轄が区役所になっており、現状、跡地利用については決まっていない。現在、さがみはら津久井産材利用促進普及啓発事業にて補助事業を実施しているが、そのうち家づくり事業に係る補助事業については、申請件数が少ないため、今後PRの工夫もしていく予定である。また、公共的建築物等に係る補助事業については、令和3年度実績で、プレジャーフォレストのドッグラン、ログキャビン前通路、小田原屋の名前プレートに利用していただいた。公共施設における木材利用については、今年度さがみはら津久井産材を使用し、東林間児童館の建て替えるほか、オリンピックで使用した木材を木製ピクセルアートとして地域の方と製作していく予定である。

事業コード5-1-1 市有林整備事業(6)

(松本会長) 令和2年度の進行遅れが令和3年度の実績に影響している。累計ではなく、単年度で考えると、それほど遅れていないのではないかと。ほぼ予定どおりであり、Aマイナスの評価でもいいのではないかと思う。

(中島委員) 森林整備については水質保全だけではなく、防災の面の役割もあることを十分に考えていただきたい。結びつけるのは難しいとは思いますが、市民側からみると、防災面も非常に重要であるため、防災に関することも森林ビジョンの中に取り入れられるとよい。

(松本会長) 柔軟的に弾力的に対応してほしい。目的が変わってくるにしろ、最終的に市民のためになる。

事業コード5-1-1 私有林整備事業(7)

(佐藤副会長) 森林環境税は森林経営管理制度を推進するため森林環境譲与税として前倒しで施行されている。神奈川県はその用途が決まらず基金として積み立てている市町村が多い中、相模原市は森林環境譲与税の活用を積極的に進めてはいるが、本来の森林整備のための意向調査はいつ頃から始めるのかも明示されていない。又過去の災害で崩壊した市管理の林道が通れない箇所が7か所もある、事業コード5-1-1では、令和8年度以降取組むとあるが、神奈川県は水源環境保全税が有るうちは森林整備の対象にならない天然林、竹林、里山の整備や、作業道の整備、土壌保全対策等を車の両輪として施業する方針になっている。森林環境譲与税の用途については、選択と集中の手法にて本来の環境整備の比率を上げるべき。

(事務局) 林道については被災している箇所が多く残っており、計画的に整備を進める必要がある。また、森林ビジョンを策定してから、取り巻く環境が変化しており、取組事項については再整理をしつつ実施している。

(松本会長) 優先順位や必要に応じて事業を進めていくのが良い。

【「重点事項その2」に係る審議会からの意見、質疑応答等】

事業コード2-3-1 津久井産天板交換等事業(8)

(淵上委員) 天板交換事業をしている。天板については広葉樹を利用しており、ナラ枯れの木も使用している。ナラ枯れの木は虫喰いによる穴があり、約半分が使用できる状況。

(松本会長) ナラ枯れで伐採した木は板には使用しにくいと思われる。大きくなったナラの木を積極的に切って、木材を有効に使用するのがよい。できれば枯れる前に活用していくのがよい。木を切ることが、山、人を守ることに繋がればよい。

事業コード4-1-1 さがみはら津久井産材利用拡大協議会の運営支援(9)

(佐藤副会長) 情報発信部会があり、パンフレット第2弾作成を今後本格的に始動していく予定である。

(杉本委員) 現在はツイッターも活用し、情報等の発信に努めている。

事業コード 4-2-3 施業集約化支援事業(12)

(松本会長) 施業履歴を集約化できるとよい。集約化されるための仕組みづくりができるよい。

森林簿のデータは精度が足りない場合があるため、地上で把握できた情報を集約化して、将来の間伐計画に役立てればよい。

(佐藤副会長) 森林整備計画の見直しが進行しているようだが、環境林として整備するゾーンと林業経営をするための森林管理をするゾーンの棲み分けができるとうい。

(松本会長) 林業事業者は、神奈川県森林GISを使用しているのか。

(佐藤副会長) 使用している。

(事務局) 林業者の意見を聞きながら、集約化に向けた取組を行っていきたい。

3 その他

森林整備計画の改定と今後のスケジュール及び次回審議会の開催時期、内容の説明を行った。

4 閉会

以上

さがみはら森林ビジョン審議会 出席者名簿

(50音順)

| | 氏 名 | 所 属 等 | 備 考 | 出欠席 |
|---|--------|-----------------------------------|-----|-----|
| 1 | 鈴木 憲一 | 公募委員 | | 欠席 |
| 2 | 佐藤 治男 | さがみはら津久井森林組合 代表理事組合長 | 副会長 | 出席 |
| 3 | 杉本 貴広 | 有限会社 杉本林業 取締役 | | 出席 |
| 4 | 中島 伸幸 | 公益社団法人 相模原市観光協会 専務理事 | | 出席 |
| 5 | 萠山 藍 | 公募委員 | | 出席 |
| 6 | 淵上 美紀子 | 一般社団法人 さがみ湖 森・モノづくり研究所 代表理事 | | 出席 |
| 7 | 松本 武 | 国立大学法人 東京農工大学大学院 農学研究院 准教授 | 会 長 | 出席 |